

# 木曽ヒノキについて

## 1. 木曽ヒノキ・木曽ヒノキ林とは

我が国のヒノキは福島県以南から鹿児島県まで天然に分布していますが、特に木曽川の上流域を中心とする長野県から岐阜県にかけて、ヒノキの分布が集中する地域が知られます。この地域の天然のヒノキが優占する森林は木曽ヒノキ林と呼ばれ、青森ヒバ、秋田スギと合わせて「日本三大美林」のひとつと呼ばれることもあります。



木曽地域（長野県内の木曽地域と岐阜県内の東濃地域）は、古くから良質の木材産地として、歴史的・文化的に貴重な社寺仏閣等の維持や地域の木材産業の継承・振興に大きな役割を果たしてきました。

木曽ヒノキの伐採は、平安・鎌倉時代の頃から既に始まっていたようです。特に広く知られるようになったのは、戦国時代の前後に社寺仏閣や城、城下町の建築、更には伊勢神宮の遷宮用材の産地としても利用されるようになってからであり、木曽川を利用して、名古屋をはじめ江戸や大阪の市場にも運搬されていきました。江戸時代には木曽地域は尾張藩領であったため「尾州材（びしゅうざい）」、「尾州桧（びしゅうひのき）」との呼び方もされました。

江戸時代前期の過度の伐採により、木曽地域の山々にはめぼしい樹木が少なくなり大変荒れてしまったため、尾張藩は俗に「木一本、首一つ」とも呼ばれる厳しい森林の保護政策をとりました。その甲斐もあって、年月を経て木々が生い茂る今日の山々へと回復していきました。

現在ある木曽ヒノキ林は、江戸時代前期の伐採の跡地において自然力で更新した森林を育てたとされている一方、天然更新が難しい箇所においては植付けや播種による更新も行われたといった諸説があり、いわゆる原生林とは異なる、人為が大きく加わって成立した森林といえます。

正校大日本植物帯調査報告

緒言

一植物帯調査ハ明治十二年ニ起業シ本年一月ヲ以テ本洲四國九州全ク業ヲ畢フ其間始ト六年餘ナリ抑モ植物帯調査ノ起因ハ過明治十一年九月内務省地理局員高島得三、櫻井該局長ノ命ヲ奉シ甲斐國ノ地質ヲ調査シ復命ノ際植物帯ノ要ヲ副陳セリ

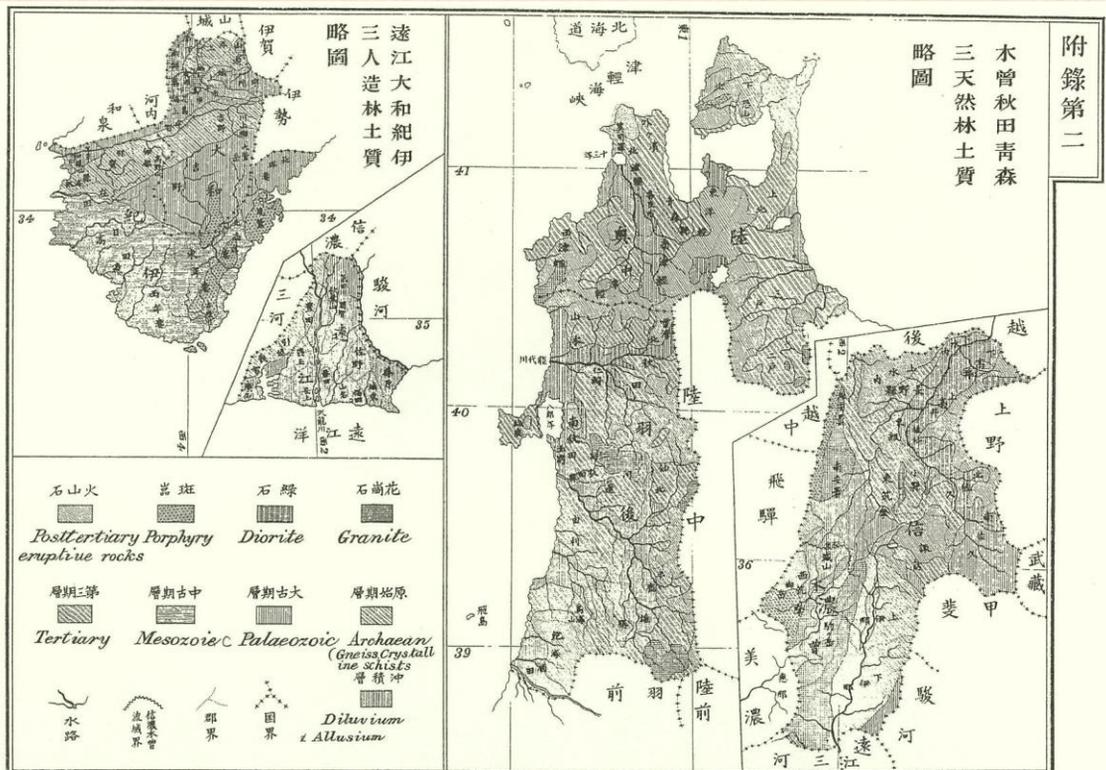
材ノ大小ヲ比較スレハ杉ノ十坪ニ二本ナレハ扁柏ハ三本羅漢柏ハ五木許ナラン又杉ノ周圍平均六尺ナレハ扁柏ハ五尺羅漢柏ハ三尺許ノ割合ナルベシ

以上木曾、青森及秋田ノ三林ハ我邦最良ノ森林ナリトス然而ソ此三良林ノ各一所ニ偏在シテ此他邦内復此ノ如キ良種ノ大林連續セル者絶テ之ナキハ甚奇ナリト謂フベシ又更ニ秋田ノ杉林ハ陸奥界矢立嶺近傍ニ至リ相絶ヘ恰モ兩種互ニ境壤ヲ讓ルカ如シ此等ハ今遽ニ其理由ヲ知ルニ由ナシト雖モ氣候、雨量、土質、等ヲ精査シ以テ推窮セハ蓋シ其原因ヲ知ルヲ得ベキナラン別冊附録第二圖ハ以上三良林ノ土質圖トス附見スヘキナリ

明治時代となり、尾張藩の山林の多くは、官有の森林、現在で言う国有林に組み込まれていきます。管理体制が変わっても木曾ヒノキの名声は衰えることなく、官庁、学界、教科書等の多くの文献からも、優れた森林・木材であるとの評価がなされていたことが確認できます。

明治10年代に明治政府が初めての全国的な森林の調査を行った際にも、「木曾の扁柏（ヒノキ）、青森の羅漢柏（ヒバ、アスナロ）、秋田の杉」が「我が国最良の森林なりとす」とまとめられるなど、全国の森林の中でも筆頭に挙げられるほど評価されていたことが窺えます。

【資料1】校正大日本植物帯調査報告（明治20年）





四、木曾檜の特徴

木曾産檜は一般に年輪の密なると色澤の清楚なるとを特徴とし其の性質は他地方産のものとも異なる点がある。今日伐出されて居るものは殆んど全部が天然生であつて樹齢百五十年乃至二百五十年を算し立木の胸高直径四五十寸のもの大部を占めて居る。従て其の年輪は頗る密で幅一厘に對し五乃至十を數ふるのが普通である。材の色澤は他國産と異り黄白色にて微紅を帯び清楚なる色合を呈し著しく光澤に富んで居るから加工仕上げ後の外觀は非常に美麗なものとなる此の點が木曾檜の大なる特色である。

建築物として木地の美を鑑賞するのは我國民獨特の趣味であり又其の美を理解する特殊の審美眼を有するのであるが此の趣味に最も適合する木材美は我が木曾檜に於て遺憾なく表現せられて居りこれを磨き上げた光澤の美しさに至つては他のあらゆる木材の追従を許さぬものがある。

木曾檜は美觀の點に於て卓越せるのみならず材質緻密にして強靱脂氣芬香豊にして工作容易伸縮率僅少負荷力強くして腐朽に堪え全く木材の王たるものである。



【資料3】昭和初期に帝室林野局内で募集された販売促進ポスター案のひとつ

【資料2】昭和初期に木曾地域の森林を管理していた帝室林野局が発行した販売促進用のパンフレット「木曾材」自画自賛ではあるものの、「木材の王」との表記あり

本曾運材法の要

運材法

運材法は、運材の至らざる所多きを以て之れが林道を造り鐵道を敷設する實に容易の業にあらざるなり然れども既に所謂築路の業に比し其の難しき處多し其の難しき處を以て之れに着手せば我努力の廣なる材價の高貴なる運材の便を聞く何の難きことか是れあるに帝國森林中の最善最良なる木曾の森林の如きすら尙未だ運材の途開けず依然迂遠なる陳腐の修路又手法を襲用し頭として悩まざるを見る我輩思ふに茲に至る毎に未だ皆て浩歎大息せずればならず夫れ木曾の如き其山の成立や稜に森林の地積や大加るに其材に富める所に向て先づ進歩せる今日の運材法を施設せざれば何れの所にか先づ之を行ふを得んや且つ夫れ木曾の運材法を改訂するは豈只其利益を以て今日に數倍せむるが爲めのみならず實に又帝國各森林の模範たらしめんが爲めなり若し夫れ木曾の林業は損得に關せざるものとするも我輩は實に及此取極まる陳腐の運材法を帝國森林の眞の中心に置き我林業の未開幼稚なる肥瘠をなすに忍びざるが爲めなり我輩は私に信ず木曾の林業は今日の運材法を用る間八百の林學士を雇ひ千の年月を籍す

林 政 學 經 理 上 級 官 林 政 學 經 理 上 級 官 林 政 學 經 理 上 級 官



【資料4】明治30年（出版年不明瞭）「林政學」 本多静六※ 講述「木曾運材法」についての中で“帝國森林中の最善最良なる木曾の森林”と述べている。  
 ※…のちの東京帝国大学農科大学教授 日本初の林學博士の一人

## 2. 木曽ヒノキがある程度のまとまりで見られる場所



つけちきょう  
付知峡自然休養林  
[中津川市付知町]



あかさわ  
赤沢自然休養林  
[木曽郡上松町]

※「日本美しい森 お薦め国有林」に選定



岐阜県

長野県

きそゆうきゅうのもり  
木曽悠久の森



### 3. 「木曽悠久の森」の取組

木曽地方（長野県内の木曽谷や岐阜県内の裏木曽）の森林は、天然のヒノキ、サワラ等を交え、古くから良質の木材産地として歴史的・文化的に貴重な社寺仏閣等の維持や地域の木材産業の継承・振興に大きな役割を果たしてきました。

こうした樹種で構成された森林は、針葉樹を中心に様々な植物や動物が生育・生息する生態系で、温帯性針葉樹林と呼ばれ、世界的にも大変貴重で希少な森林です。

中部森林管理局では、この温帯性針葉樹林を守り育てていく取組を進めていくため、「木曽悠久の森」を設定し保護を行うとともに、人工林を天然林に戻す（転換する）ための、抜き切りやササの除去などを行う「復元」を行っていきます。



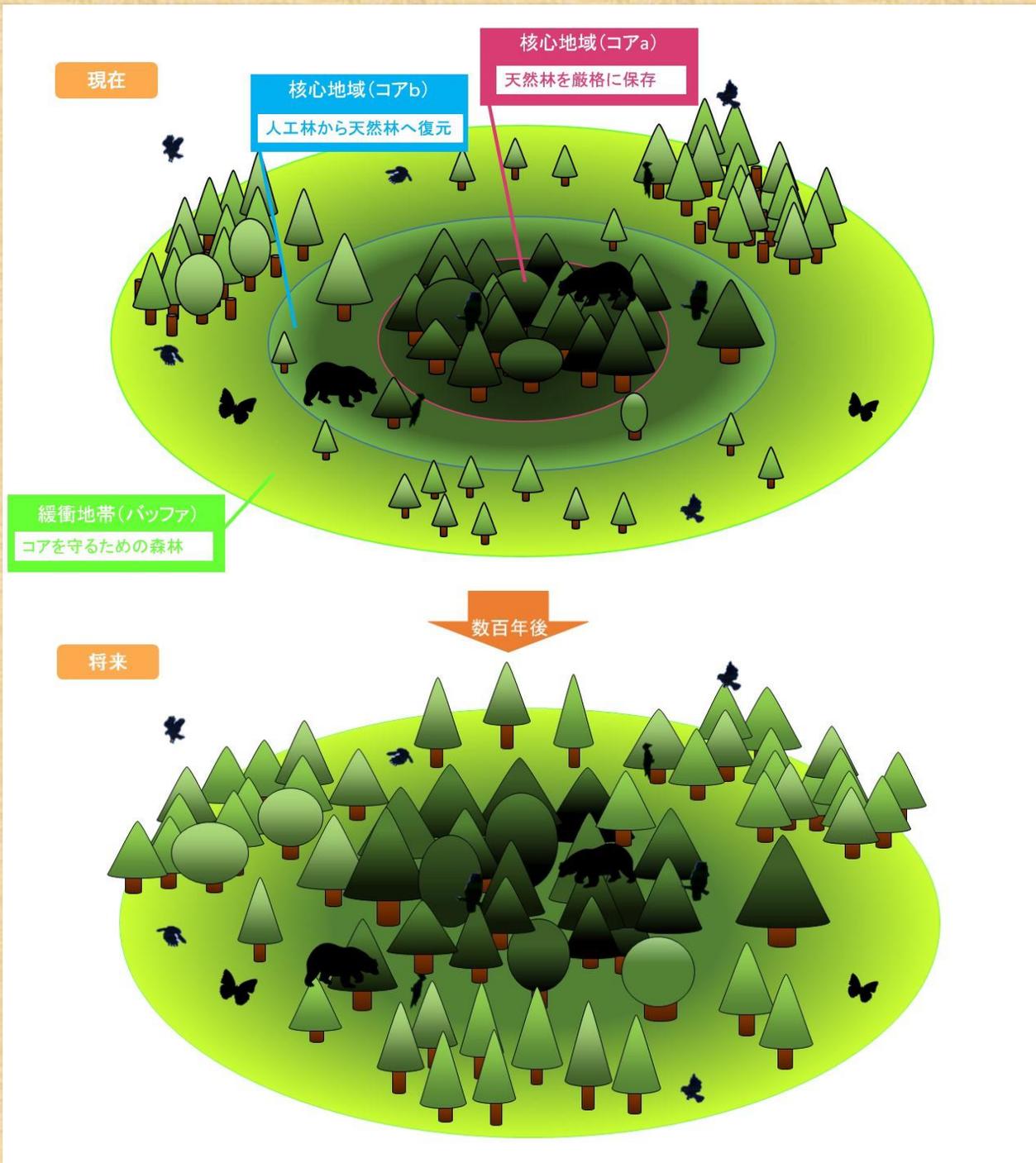
将来（イメージ）：落葉広葉樹（ブナなど）と、温帯性針葉樹が混交している天然林

木曽悠久の森



## 4. 「木曾悠久の森」が目指す将来像

広がりをもって永續する天然林を復元する作業を、長期にわたって計画的に行います。温帯性針葉樹林を厳格に保存、復元するため、天然林を厳格に保存する核心地域（コアa）、人工林から天然林へ復元する核心地域（コアb）、コアを守るための緩衝地域（バッファ）を設置しています。



林野庁 中部森林管理局

「木曾ヒノキ林」紹介ホームページ→

